

材料の力学 1 Step 3 第 11 回演習問題 (2019/7/9 実施)

- [1] 図 1.1 に示すような長さ $3L$ のはりにおいて, OA 間と CD 間に分布荷重 p が下向きに作用している. また, はりの断面は図 1.2 に示すような 1 辺が $2a$ の正六角形となっている. 縦弾性係数を E とし, 以下の問いに答えよ.

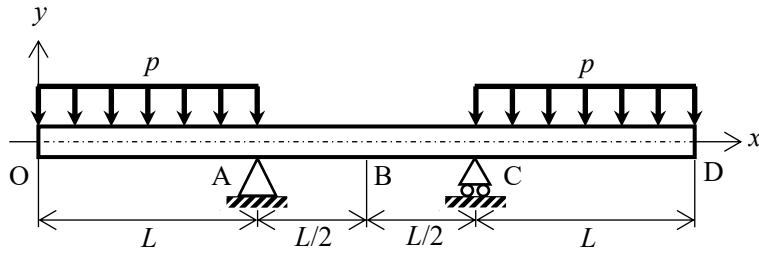


Fig. 1.1 分布荷重を受けるはり.

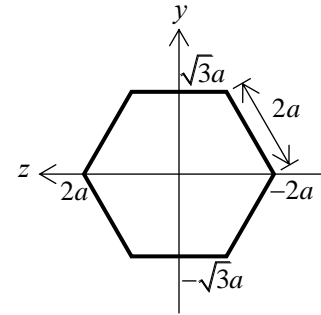


Fig. 1.2 はり断面図.

- (1) はりの z 軸に関する断面 2 次モーメント I_z を求めよ.

以下の問いでは曲げ剛性を EI として答えよ.

- (2) A , C 点における支点反力 R_A , R_C をそれぞれ求めよ.
 (3) 対称性を考慮してはりの OB 間に生じる曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示せよ.
 (4) はりのたわみ角 $v'(x)$, たわみ $v(x)$ を表す式を求めよ.
 (5) はりに最大たわみ v_{\max} が生じる位置を示し, 最大たわみ v_{\max} を求めよ.

(1) はりの z 軸に関する断面 2 次モーメント I_z を求めよ.

はりの断面 2 次モーメント I_z は, 図 1.3 に示すように部材 A と部材 B に分け, 部材 A の断面 2 次モーメント I_{zA} と部材 B の断面 2 次モーメント I_{zB} を足し合わせることで求める.

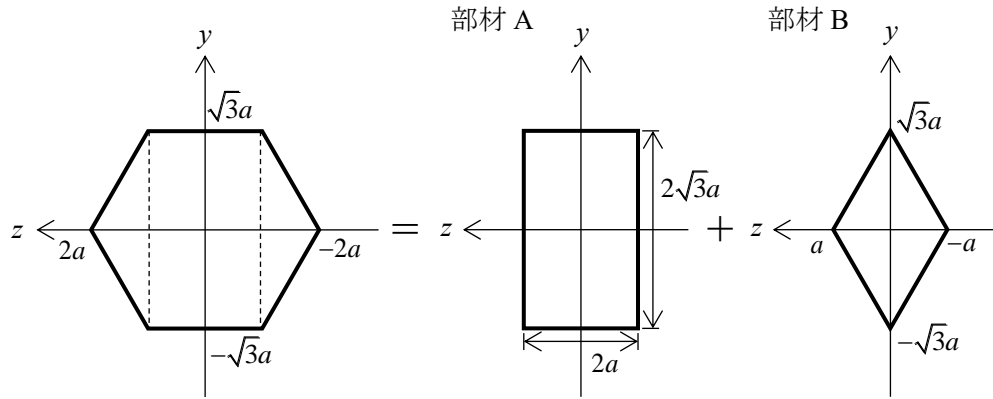


Fig. 1.3 断面 2 次モーメントの導出方法.

それぞれの部材における断面 2 次モーメントを求める.

i) 部材 A について

断面は長方形であるから, z 軸に関する断面 2 次モーメント I_{zA} は次のように求まる. ここで, b は長方形の幅, h は高さを表す.

$$I_{zA} = \frac{bh^3}{12} = \frac{2a \cdot (2\sqrt{3}a)^3}{12} = 4\sqrt{3}a^4 \quad (1.1)$$

ii) 部材 B について

断面は z 軸について対称であるから z 軸の上部のみ考える.

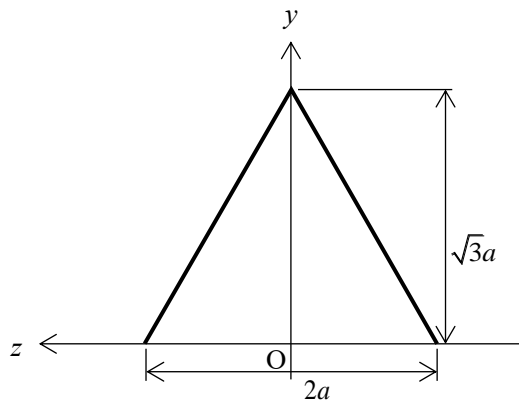


Fig. 1.4 はりの断面.

z 軸に関する断面 2 次モーメント I_{zB} は次式で表される．ここで， b は三角形の底辺， h は高さを表す．

$$\frac{I_{zB}}{2} = \frac{bh^3}{12} = \frac{2a \cdot (\sqrt{3}a)^3}{12} = \frac{\sqrt{3}}{2} a^4 \quad (1.2)$$

$$\therefore I_{zB} = \sqrt{3}a^4 \quad (1.3)$$

以上より，はりの z 軸に関する断面 2 次モーメント I_z は，

$$I_z = I_{zA} + I_{zB} = 5\sqrt{3}a^4 \quad (1.4)$$

～別解～

部材 B の断面 2 次モーメント I_{zB} の算出について，以下に別解を示す．断面は z 軸について対称であるから z 軸の上部のみ考える．

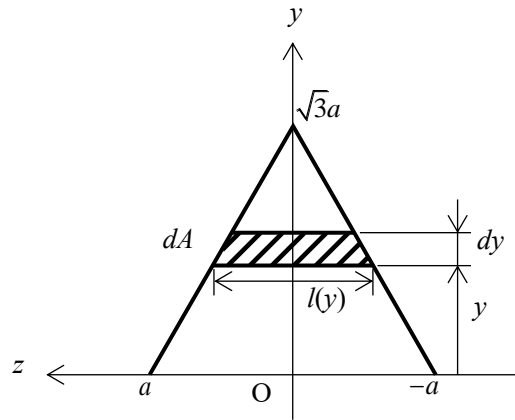


Fig. A はりの断面．

z 軸に関する断面 2 次モーメント I_{zB} は次式で表される．

$$\frac{I_{zB}}{2} = \int_A y^2 dA \quad (A1)$$

ここで，図 1.4 より dA は，

$$\begin{aligned}
 dA &= l(y) dy \\
 &= 2 \left\{ a - \left(\frac{y}{\sqrt{3}} \right) \right\} dy
 \end{aligned} \tag{A2}$$

式(A1), (A2)より断面 2 次モーメント I_{zB} は以下のように求まる.

$$\begin{aligned}
 \frac{I_{zB}}{2} &= \int_0^{\sqrt{3}a} y^2 \times 2 \left\{ a - \left(\frac{y}{\sqrt{3}} \right) \right\} dy \\
 &= 2a \int_0^{\sqrt{3}a} y^2 dy - \frac{2}{\sqrt{3}} \int_0^{\sqrt{3}a} y^3 dy \\
 &= 2a \left[\frac{y^3}{3} \right]_0^{\sqrt{3}a} - \frac{2}{\sqrt{3}} \left[\frac{y^4}{4} \right]_0^{\sqrt{3}a} \\
 &= \frac{\sqrt{3}}{2} a^4
 \end{aligned} \tag{A3}$$

$$\therefore I_{zB} = \sqrt{3} a^4 \tag{A4}$$

(2) A, C 点における支点反力 R_A , R_C をそれぞれ求めよ.

はり全体の FBD は図 1.5 のように描ける.

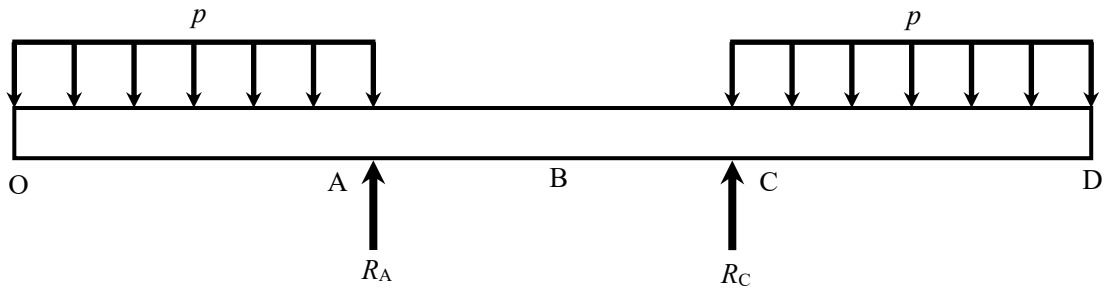


Fig. 1.5 はり全体の FBD.

図 1.5 において力のつり合いは以下のように表される.

$$R_A + R_C - pL - pL = 0 \tag{1.5}$$

対称性より $R_A = R_C$ であるから, 支点反力 R_A , R_C は以下のように求まる.

$$R_A = R_C = pL \quad (1.6)$$

(3) 対称性を考慮してはりの OB 間に生じる曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示せよ.

OB 間に生じる曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示するにあたり, 図 1.6 のように AB 間の上下に分布荷重 p が作用していると見なす. なお, この AB 間に作用する分布荷重 p は上下で打ち消し合うことに注意する.

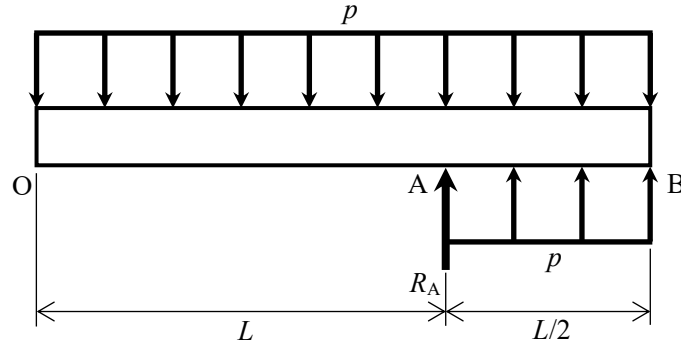


Fig. 1.6 FBD.

図 1.6 において曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示すると次のようになる.

$$M(x) = \frac{1}{2} p \langle x \rangle^2 - \frac{1}{2} p \langle x - L \rangle^2 - R_A \langle x - L \rangle^1 \quad (1.7)$$

式(1.6)を踏まえると最終的に以下のように表される.

$$M(x) = \frac{1}{2} p \langle x \rangle^2 - \frac{1}{2} p \langle x - L \rangle^2 - pL \langle x - L \rangle^1 \quad (1.8)$$

(4) はりのたわみ角 $v'(x)$, たわみ $v(x)$ を表す式を求めよ.

たわみの基礎式と式(1.8)より,

$$\begin{aligned} -EIv''(x) &= M(x) \\ &= \frac{1}{2} p \langle x \rangle^2 - \frac{1}{2} p \langle x - L \rangle^2 - pL \langle x - L \rangle^1 \end{aligned} \quad (1.9)$$

よって, はりのたわみ角 $v'(x)$, たわみ $v(x)$ は以下のように表される.

$$-EIv'(x) = \frac{1}{6}p\langle x \rangle^3 - \frac{1}{6}p\langle x-L \rangle^3 - \frac{1}{2}pL\langle x-L \rangle^2 + C_1 \quad (1.10)$$

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{6}p\langle x \rangle^3 - \frac{1}{6}p\langle x-L \rangle^3 - \frac{1}{2}pL\langle x-L \rangle^2 + C_1 \right\} \quad (1.11)$$

$$-EIv(x) = \frac{1}{24}p\langle x \rangle^4 - \frac{1}{24}p\langle x-L \rangle^4 - \frac{1}{6}pL\langle x-L \rangle^3 + C_1x + C_2 \quad (1.12)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{24}p\langle x \rangle^4 - \frac{1}{24}p\langle x-L \rangle^4 - \frac{1}{6}pL\langle x-L \rangle^3 + C_1x + C_2 \right\} \quad (1.13)$$

ここで、 C_1 、 C_2 は積分定数である．対称性より B 点において $v'(3L/2)=0$ であるから、

$$v'\left(\frac{3L}{2}\right) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{6}p\left(\frac{3L}{2}\right)^3 - \frac{1}{6}p\left(\frac{L}{2}\right)^3 - \frac{1}{2}pL\left(\frac{L}{2}\right)^2 + C_1 \right\} = 0 \quad (1.14)$$

$$\begin{aligned} \therefore C_1 &= \left(-\frac{27}{48} + \frac{1}{48} + \frac{6}{48} \right) pL^3 \\ &= -\frac{5}{12} pL^3 \end{aligned} \quad (1.15)$$

また、A 点においては $v(L)=0$ であるから、

$$v(L) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{24}pL^4 - \frac{5}{12}pL^4 + C_2 \right) = 0 \quad (1.16)$$

$$\begin{aligned} \therefore C_2 &= \left(-\frac{1}{24} + \frac{10}{24} \right) pL^4 \\ &= \frac{3}{8} pL^4 \end{aligned} \quad (1.17)$$

以上より、はりのたわみ角 $v'(x)$ 、たわみ $v(x)$ は以下の式で表される．

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6}p\langle x \rangle^3 - \frac{1}{6}p\langle x-L \rangle^3 - \frac{1}{2}pL\langle x-L \rangle^2 - \frac{5}{12}pL^3 \right) \quad (1.18)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{24}p\langle x \rangle^4 - \frac{1}{24}p\langle x-L \rangle^4 - \frac{1}{6}pL\langle x-L \rangle^3 - \frac{5}{12}pL^3x + \frac{3}{8}pL^4 \right) \quad (1.19)$$

(5) はりに最大たわみ v_{\max} が生じる位置を示し、最大たわみ v_{\max} を求めよ。

最大たわみ v_{\max} は対称性より $x=0, 3L$ または $x=3L/2$ の位置で生じると考えられる。そのため、 $x=0, 3L$ と $x=3L/2$ におけるたわみをそれぞれ算出し、その大きさを比較することで最大たわみ v_{\max} を求める。

$x=0, 3L$ と $x=3L/2$ におけるたわみは式(1.19)より次のように求まる。

$$\begin{aligned} v(0) &= v(3L) \\ &= -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{24} p \cdot 0^4 - \frac{5}{12} pL^3 \cdot 0 + \frac{3}{8} pL^4 \right) \\ &= -\frac{3pL^4}{8EI} \end{aligned} \quad (1.20)$$

$$\begin{aligned} v\left(\frac{3L}{2}\right) &= -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{24} p \cdot \left(\frac{3L}{2}\right)^4 - \frac{1}{24} p \cdot \left(\frac{L}{2}\right)^4 - \frac{1}{6} pL \cdot \left(\frac{L}{2}\right)^3 \right. \\ &\quad \left. - \frac{5}{12} pL^3 \cdot \left(\frac{3L}{2}\right) + \frac{3}{8} pL^4 \right) \\ &= -\frac{pL^4}{EI} \left(\frac{81}{384} - \frac{1}{384} - \frac{8}{384} - \frac{240}{384} + \frac{144}{384} \right) \\ &= \frac{pL^4}{16EI} \end{aligned} \quad (1.21)$$

式(1.20), (1.21)より $|v(0) = v(3L)| > |v(3L/2)|$ であるから、最大たわみ v_{\max} は $x=0, 3L$ の位置で生じその値は、

$$v_{\max} = -\frac{3pL^4}{8EI} \quad (1.22)$$

- [2] 図 2 に示すような左端が壁に固定され点 A で単純支持されている長さ $3L$ のはりがある．はりには，点 B に集中荷重 P ($P=3pL$)，OA 間に分布荷重 p がそれぞれ下向きに作用している．このとき以下の問いに答えよ．ただし，はりの曲げ剛性を EI とする．

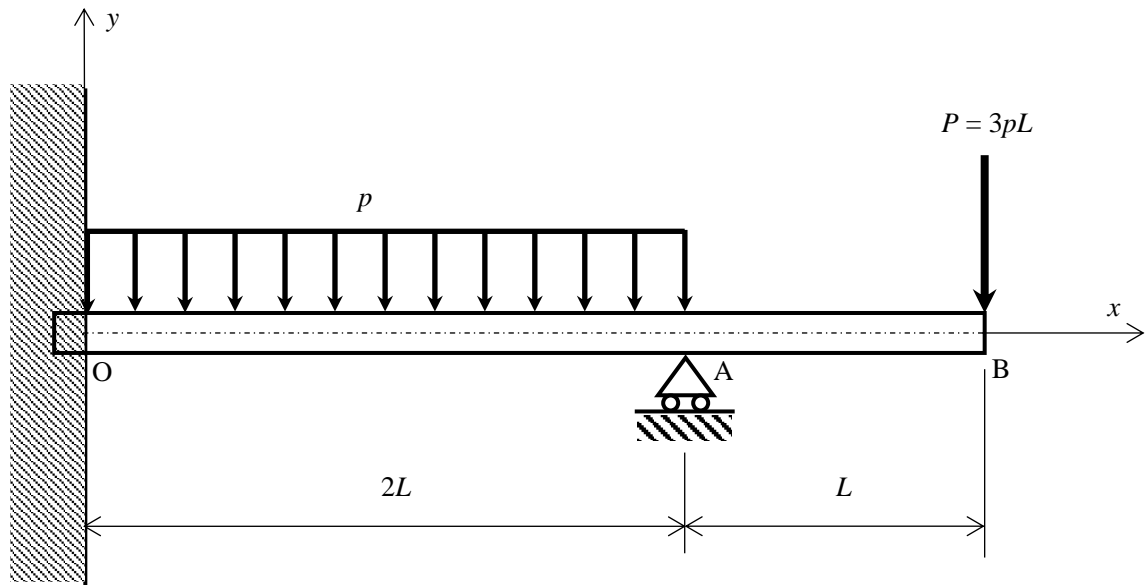


Fig. 2 壁に固定されたはり．

- (1) 壁からの反力を R_0 ，反モーメントを M_0 ，点 A における反力を R_A としてはり全体の FBD を描き，力のつり合い式および点 O まわりのモーメントのつり合い式を求めよ．
- (2) はりの曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示せよ．
- (3) 壁からの反力 R_0 ，反モーメント M_0 ，点 A における反力 R_A をそれぞれ求めよ．
- (4) 点 B におけるはりのたわみ角 ν'_B ，たわみ ν_B をそれぞれ求めよ．

- (1) 壁からの反力を R_O , 反モーメントを M_O , 点 A における反力を R_A としてはり全体の FBD を描き, 力のつり合い式および点 O まわりのモーメントのつり合い式を求めよ.

壁からの反力 R_O , 反モーメント M_O , 点 A における反力 R_A を用いてはり全体の FBD を描くと下図のようになる.

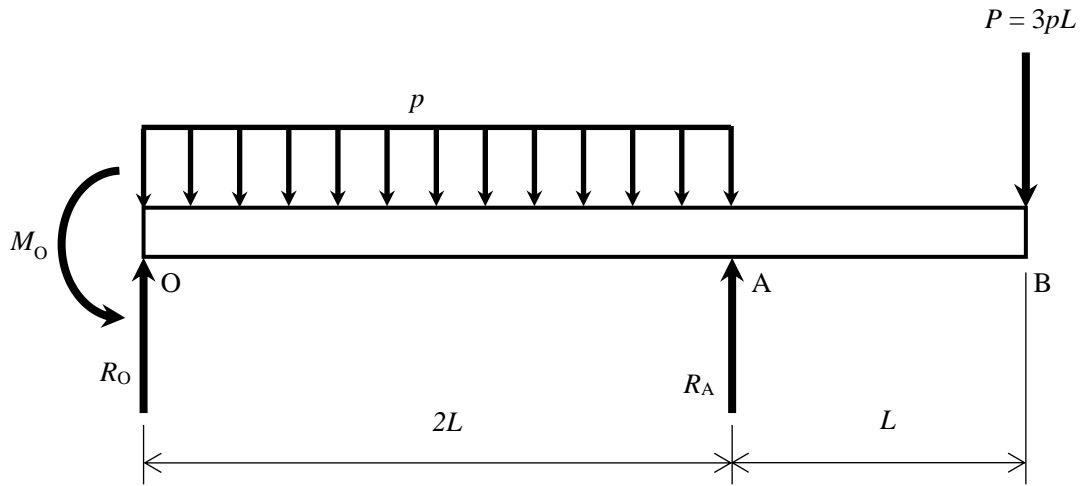


Fig. 2.1 はり全体の FBD.

力のつり合い式は以下のようなになる.

$$\begin{aligned} -2pL - P + R_O + R_A &= 0 \\ -2pL - 3pL + R_O + R_A &= 0 \end{aligned} \quad (2.1)$$

また, 点 O まわりのモーメントのつり合い式は以下のようなになる.

$$\begin{aligned} -M_O + \int_0^{2L} pxdx + 3PL - 2R_AL &= 0 \\ -M_O + 2pL^2 + 9pL^2 - 2R_AL &= 0 \end{aligned} \quad (2.2)$$

(2) はりの曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示せよ.

曲げモーメント $M(x)$ の特異関数表示を考えるために, はりの $2L \leq x \leq 3L$ において上下に分布荷重 p が作用している場合を考える. このとき FBD を描くと下図のようになる. ただし, $2L \leq x \leq 3L$ において上下に作用する分布荷重 p は互いに打ち消し合うことに注意する.

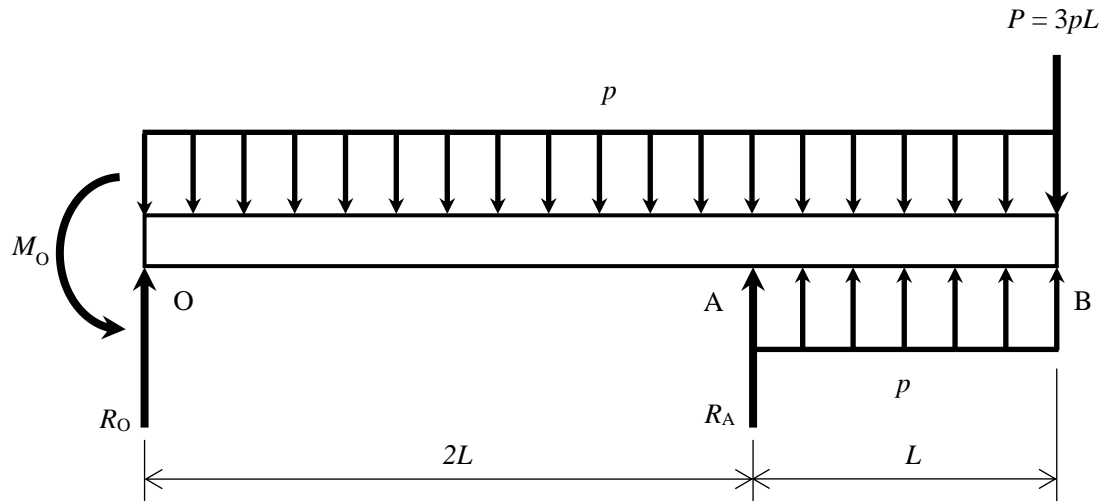


Fig. 2.2 FBD.

上図よりはりの曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示すると以下のようになる.

$$M(x) = M_O \langle x \rangle^0 - R_O \langle x \rangle^1 - R_A \langle x - 2L \rangle^1 + \frac{P}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{P}{2} \langle x - 2L \rangle^2 \quad (2.3)$$

(3) 壁からの反力 R_O , 反モーメント M_O , 点 A における反力 R_A をそれぞれ求めよ.

はりのたわみの基礎式に式(2.3)にて示した曲げモーメント $M(x)$ を代入すると,

$$-EIv'' = M_O \langle x \rangle^0 - R_O \langle x \rangle^1 - R_A \langle x - 2L \rangle^1 + \frac{P}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{P}{2} \langle x - 2L \rangle^2 \quad (2.4)$$

のように表され, 両辺を積分すると,

$$\begin{aligned} -EIv' &= M_O \langle x \rangle^1 - \frac{R_O}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_A}{2} \langle x - 2L \rangle^2 + \frac{P}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{P}{6} \langle x - 2L \rangle^3 + C_1 \\ v' &= -\frac{1}{EI} \left\{ M_O \langle x \rangle^1 - \frac{R_O}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_A}{2} \langle x - 2L \rangle^2 + \frac{P}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{P}{6} \langle x - 2L \rangle^3 + C_1 \right\} \end{aligned} \quad (2.5)$$

$$\begin{aligned}
-EIv &= \frac{M_O}{2}\langle x \rangle^2 - \frac{R_O}{6}\langle x \rangle^3 - \frac{R_A}{6}\langle x-2L \rangle^3 + \frac{P}{24}\langle x \rangle^4 - \frac{P}{24}\langle x-2L \rangle^4 + C_1x + C_2 \\
v &= -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{M_O}{2}\langle x \rangle^2 - \frac{R_O}{6}\langle x \rangle^3 - \frac{R_A}{6}\langle x-2L \rangle^3 + \frac{P}{24}\langle x \rangle^4 - \frac{P}{24}\langle x-2L \rangle^4 + C_1x + C_2 \right\} \quad (2.6)
\end{aligned}$$

が得られる．ただし， C_1 ， C_2 は積分定数である．

ここで境界条件について考える．点 O は固定端なので境界条件は，

$$v(0) = v'(0) = 0 \quad (2.7)$$

であり，点 A は単純支持であるので境界条件は，

$$v(2L) = 0 \quad (2.8)$$

である．

式(2.5)，(2.6)に関して式(2.7)に示した境界条件より，

$$C_1 = C_2 = 0 \quad (2.9)$$

であるため，たわみ角 $v'(x)$ ，たわみ $v(x)$ は，

$$v' = -\frac{1}{EI} \left[M_O \langle x \rangle^1 - \frac{R_O}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_A}{2} \langle x-2L \rangle^2 + \frac{P}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{P}{6} \langle x-2L \rangle^3 \right] \quad (2.10)$$

$$v = -\frac{1}{EI} \left[\frac{M_O}{2} \langle x \rangle^2 - \frac{R_O}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{R_A}{6} \langle x-2L \rangle^3 + \frac{P}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{P}{24} \langle x-2L \rangle^4 \right] \quad (2.11)$$

と表される．また，式(2.11)に対して式(2.8)に示した境界条件を考えると，

$$\begin{aligned}
0 &= \frac{M_O}{2}(2L)^2 - \frac{R_O}{6}(2L)^3 + \frac{P}{24}(2L)^4 \\
&= 2M_O L^2 - \frac{4}{3}R_O L^3 + \frac{2}{3}PL^4 \\
&\therefore 3M_O - 2R_O L = -PL^2
\end{aligned} \quad (2.12)$$

のように整理できる．ここで，式(2.1)，(2.2)を整理すると，

$$R_O + R_A = 5pL \quad (2.13)$$

$$M_O + 2R_A L = 11pL^2 \quad (2.14)$$

のように表される．反力 R_O ，反力 R_A ，反モーメント M_O は式(2.12)，(2.13)，(2.14)を連立して求める．式(2.12)，式(2.14)より反モーメント M_O を消去すると，

$$R_O + 3R_A = 17pL \quad (2.15)$$

が得られる．式(2.13)，式(2.15)より反力 R_A ， R_O は，

$$\begin{aligned} 2R_A &= 12pL \\ R_A &= 6pL \end{aligned} \quad (2.16)$$

$$\begin{aligned} R_O + 6pL &= 5pL \\ R_O &= -pL \end{aligned} \quad (2.17)$$

と求められる．反モーメント M_O は式(2.14)，(2.16)より，

$$\begin{aligned} M_O + 12pL &= 11pL^2 \\ M_O &= -pL^2 \end{aligned} \quad (2.18)$$

と求められる．以上より，反力 R_O ， R_A ，反モーメント M_O をまとめると以下のようなになる．

$$\begin{cases} R_O = -pL \\ R_A = 6pL \\ M_O = -pL^2 \end{cases} \quad (2.19)$$

(4) 点 B におけるたわみ角 v'_B , たわみ v_B をそれぞれ求めよ.

式(2.10), (2.11)に式(2.19)を代入するとはりのたわみ角 $v'(x)$, たわみ $v(x)$ はそれぞれ以下のように表される.

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ -pL^2 \langle x \rangle^1 + \frac{pL}{2} \langle x \rangle^2 - 3pL \langle x-2L \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle x-2L \rangle^3 \right\} \quad (2.20)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ -\frac{pL^2}{2} \langle x \rangle^2 + \frac{pL}{6} \langle x \rangle^3 - pL \langle x-2L \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{p}{24} \langle x-2L \rangle^4 \right\} \quad (2.21)$$

式(2.20), (2.21)に $x=3L$ をそれぞれ代入することでたわみ角 v'_B , たわみ v_B は以下のように求められる.

$$\begin{aligned} v'_B &= -\frac{1}{EI} \left\{ -pL^2 \langle 3L \rangle^1 + \frac{pL}{2} \langle 3L \rangle^2 - 3pL \langle 3L-2L \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle 3L \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle 3L-2L \rangle^3 \right\} \\ &= -\frac{1}{EI} \left(-3pL^3 + \frac{9}{2} pL^3 - 3pL^3 + \frac{9}{2} pL^3 - \frac{1}{6} pL^3 \right) \\ &= -\frac{17pL^3}{6EI} \end{aligned} \quad (2.22)$$

$$\begin{aligned} v_B &= -\frac{1}{EI} \left\{ -\frac{pL^2}{2} \langle 3L \rangle^2 + \frac{pL}{6} \langle 3L \rangle^3 - pL \langle 3L-2L \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle 3L \rangle^4 - \frac{p}{24} \langle 3L-2L \rangle^4 \right\} \\ &= -\frac{1}{EI} \left(-\frac{9}{2} pL^4 + \frac{9}{2} pL^4 - pL^4 + \frac{27}{8} pL^4 - \frac{1}{24} pL^4 \right) \\ &= -\frac{7pL^4}{3EI} \end{aligned} \quad (2.23)$$

～別解～

点 B におけるたわみ角 v'_B ，たわみ v_B はについて重ね合わせの原理を用いて求める．

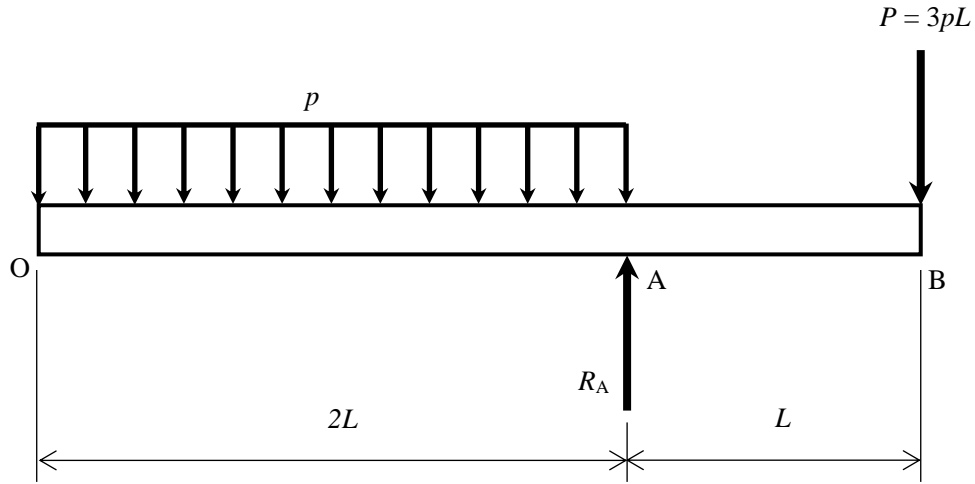


Fig. B はり全体の荷重.

下向きの分布荷重 p によって生じる点 B のたわみ角 v'_{B1} ，たわみ v_{B1} は以下のように求められる．

$$\begin{aligned} v'_{B1} &= -\frac{p(2L)^3}{6EI} = -\frac{4pL^3}{3EI} \\ v_{B1} &= -\frac{p(2L)^4}{8EI} - \frac{p(2L)^3}{6EI} \cdot L = -\frac{10pL^4}{3EI} \end{aligned} \quad (B1)$$

支点反力 R_A によって生じる点 B のたわみ角 v'_{B2} ，たわみ v_{B2} は以下のように求められる．

$$\begin{aligned} v'_{B2} &= \frac{R_A(2L)^2}{2EI} = \frac{12pL^2}{EI} \\ v_{B2} &= \frac{R_A(2L)^3}{3EI} + \frac{R_A(2L)^2}{2EI} \cdot L = \frac{28pL^4}{EI} \end{aligned} \quad (B2)$$

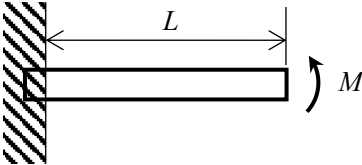
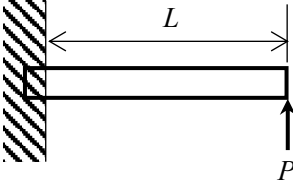
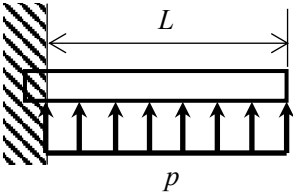
点 B にかかる荷重 P によって生じる点 B のたわみ角 v'_{B3} ，たわみ v_{B3} は以下になる．

$$\begin{aligned}
v'_{B3} &= -\frac{P(3L)^2}{2EI} = -\frac{27pL^2}{2EI} \\
v_{B3} &= -\frac{P(3L)^3}{3EI} = -\frac{27pL^4}{EI}
\end{aligned}
\tag{B3}$$

したがって，点 B におけるたわみ角 v'_B ，たわみ v_B は重ね合わせの原理よりそれぞれ以下の
ように求められる．

$$\begin{aligned}
v'_B &= v'_{B1} + v'_{B2} + v'_{B3} = -\frac{4pL^3}{3EI} + \frac{12pL^3}{EI} - \frac{27pL^3}{2EI} = -\frac{17pL^3}{6EI} \\
v_B &= v_{B1} + v_{B2} + v_{B3} = -\frac{10pL^4}{3EI} + \frac{28pL^4}{EI} - \frac{27pL^4}{EI} = -\frac{7pL^4}{3EI}
\end{aligned}
\tag{B4}$$

なお，たわみについては以下の関係を用いた．

荷重形式	たわみ角 v'	たわみ v
	$\frac{ML}{EI}$	$\frac{ML^2}{2EI}$
	$\frac{PL^2}{2EI}$	$\frac{PL^3}{3EI}$
	$\frac{pL^3}{6EI}$	$\frac{pL^4}{8EI}$